

Denture Treatmentに必要な

歯科技工士のスキルと役割

(総義歯からの多数歯欠損症例の捉え方)



今西 秀郷

超高齢化社会が進む日本において、Denture Treatment は非常に重要な補綴治療であるとともに、その重要性は今後ますます増加するものと思われる。しかし、義歯は院外技工にて製作されることにより、Denture Technician がチェアサイドでの工程や治療等を詳細に理解することが困難である。そのため、機能および審美性において患者の満足を得られる義歯を製作することは非常に難易度が高く難しいと思われる。このように、診療所と歯科技工所間でのコミュニケーションが充分に取れていないのだろうと推測する。これは義歯治療だけに限らず補綴治療全般にいえることであり、特に総義歯を含めた多数歯欠損症例の場合、診療室とのコミュニケーションは最終補綴のゴールの指標となることを総義歯にフォーカスしてその重要性をお話したい。

【略歴】

1996年 大阪歯科大学歯科技工士専門学校卒業

1996年 ADL

2000年 イーストデンタルラボ

2011年 Zeal ism 開業

【所属】

京都府歯科技工士会

KSI アドバンスメンバー

SDR

歯庵

IFAA

日本顎咬合学会 認定技工士